続・ふるさとこぼれ話

モデルになった福田たねの兄弟姉妹

第39回

「わだつみのいろこの宮」に描かれているモデルたちは、だれなのかをいろいろ調べてみた。

画面上方、裸体で釣り針を失くして困っている山幸彦は、福田たねの八つ下の弟・栄吉である。彼が腰掛けているのは滄海の神殿にたつ香木ユズカズラである。モデルとなった木は、現在も福田家跡に残るキンモクセイで、樹齢百数十年と思われる。

左から山幸彦を仰ぎ見る赤い衣を身にまとうのが豊玉姫である。これは福田たねである。右の白い衣の侍女は福田家近く与能の神保リウである。絵のモデルになどなったことがないのに、青木繁からいろんなポーズを求められ泣きながら役目を果たしたと伝えられる。

福田蘭童によると侍女役は福田たねの妹・みきであり、蘭童が上京する十数歳までかわいがり、育ててくれた叔母さんであるという。

青い海底と紅衣、白衣の女性のコントラストが絶妙であり、妖しい雰囲気が良く出ている。たねの実家である呉服商紙屋から運んだ、色とりどりの縮緬（ちりめん）を豪農黒崎家のアトリエにつるし、3年前に房総布良の海に潜って海女メガネをかけてのぞいた滄海の宮殿のイメージの復元に工夫をしたようだ。

現在では想像もできないが、明治40年当時の福田家や黒崎家のそばを流れる五行川の澄んでいる流れ、揺れる川藻、川底から湧き出る地下水、その神秘さを毎日見つめた青木に、五行川の流れは「わだつみのいろこの宮」の制作に大な影響を与えたと考えるは、筆者だけであろうか。

▲福田家跡に残るキンモクセイ

▲1979年に記念切手になった「わだつみのいろこの宮」

問生涯学習課総合情報館推進係
【☎028（677）2525】

編集後記

□「広報はが11月号」が、栃木県広報コンクールで奨励賞を受賞しました。おかげさまで3年連続の入賞になります。賞状と盾を受け取り、改めて初心にかえって紙面づくりを見直したいと思いました。

□毎月、見てもらえる、読んでもらえるよういろいろ悩みながら作っています。皆さんにとって広報紙が、もっと身近な存在になるようにと…。食卓に紙面の話題が出るくらいになればと思います。

■楽しい紙面の演出には、作り手が楽しまなきゃダメ、自分に言い聞かせて、今よりも前に進みたいと考えます。皆さんの応援を、キビシイ意見でお寄せください。（ネタ）

■編集　芳賀町広報広聴委員会
☎028（677）6032　✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
■発行　芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
■芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp
芳賀町の携帯サイトはコチラから➡

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK
環境保護印刷
この印刷物は、E3PAのゴールド基準に適合した地球環境に優しい印刷方法で作成されています
E3PA：環境保護印刷推進協議会
http://www.e3pa.com

Limnodromus scolopaceus
（ヤマシギに似た沼を走る鳥）

本町で見られる多くのシギ類は、旅鳥や夏鳥などであり、日本で繁殖しているのはイソシギ、タシギ、タマシギ、ヤマシギの４種ある。

また、日本の野鳥550種の中でも、シギとチドリの仲間は多く60種くらい見られるが、残念ながら本町では地理的特色により見られる種類は少ない。水張り休耕田などには旅鳥が、春と秋の渡りの途中でときおり見られるときがある。

これは中型のシギ（L=29㎝）で、くちばしは長くまっすぐであり、足は黄色く短かめである。頭上が灰黒色で赤褐色の羽縁があり、体の上面は黒い軸斑に、赤褐色の羽縁、白い斑点がある。下面から腰にかけては白く横斑模様がある。

シギ類の仲間にはクチバシが反っているものや長いものなどさまざまな種類がいるが、採餌の時に深い水の中を探るのに都合良く進化している。